

# 油圧ポンプのエア抜きの方法 及びオイル量に付きまして

- ・初めて使用する時、シリンダーが正常に作動しない時はエア抜きの行ってください。
- ・エア抜きのする時はポンプとシリンダーはプレスから取外して行ってください。

## 油圧ポンプのエア抜きの方法



1. 油圧ポンプをシリンダーより高い位置に設置します。

シリンダーの伸びるロッド部分を下向きに、ホース接続部分を上向きにします。(図1)

図2のエア抜きボルトをゆっくりと緩めてエアを排出してください。(図2)

**注意：この時にエアとオイルと一緒に出る場合があります。**

ウエスでボルトを覆いながら作業してください。

ポンプを使用する時は毎回エア抜きボルトを少し緩めてご使用ください。

使用后、使用しない時はボルトを締めてください。

ポンプのリリースバルブを右に一杯に回して、ポンピングさせシリンダーを一杯まで伸ばしてください。(オイル漏れが無い事を確認してください。)

※シリンダーの伸びは1回のポンピングで2mm程度です。縮む速度はとてもゆっくりです。

シリンダーは全て収縮しません。5cm程度突出した状態となります。

2. ポンプのリリースバルブを左に回しシリンダーを縮めます。

上記作業を2～3回繰り返してエア抜きのしてください。

※エアが抜けない時はオイル量を確認してください。

正常に作動しないときはお買い求めの販売店又は弊社へお問い合わせください。

## メンテナンス

※1年に1回、油圧ポンプのオイル交換をしてください。

使用オイル：作動油 ISO VG32

オイル量：約 500ml

1. 油圧ポンプの油圧バルブを反時計回りに回します。
  2. エア抜きボルトを取外して、廃油受け等に排出します。(図5)
  3. 新しいオイルをエア抜きボルトの穴より補充します。
- エア抜きボルトを締めてエア抜きのしてください。



この度はJTC工具を御買上頂きまして、誠に有難うございます。

本製品をより安全・適切にお使いいただくために この取扱い説明書をお読みください。

取扱い説明及び表示の注意事項や使用方法は十分に理解した上で正しくお使い下さい。

この取扱説明書はお手元に大切に保管ください。

 危険

設置場所の注意：プレスが転倒したり、地面の沈み込みの恐れがある軟弱な地面、凸凹の地面、傾斜のある地面等には設置しないでください。転倒や加工部品の落下等で重傷、死亡事故の原因となります。

作業者の注意：作業される方は必ず御使用前に取扱い説明書を熟知し本製品の使用方法をよく理解してください。さらに各部の操作に慣れ、圧力の調整作業をゆっくりと慎重に行える方が作業してください。不慣れな方は重傷、死亡の事故の原因となります。

本体の分解、修理、改造はしないでください。

 警告

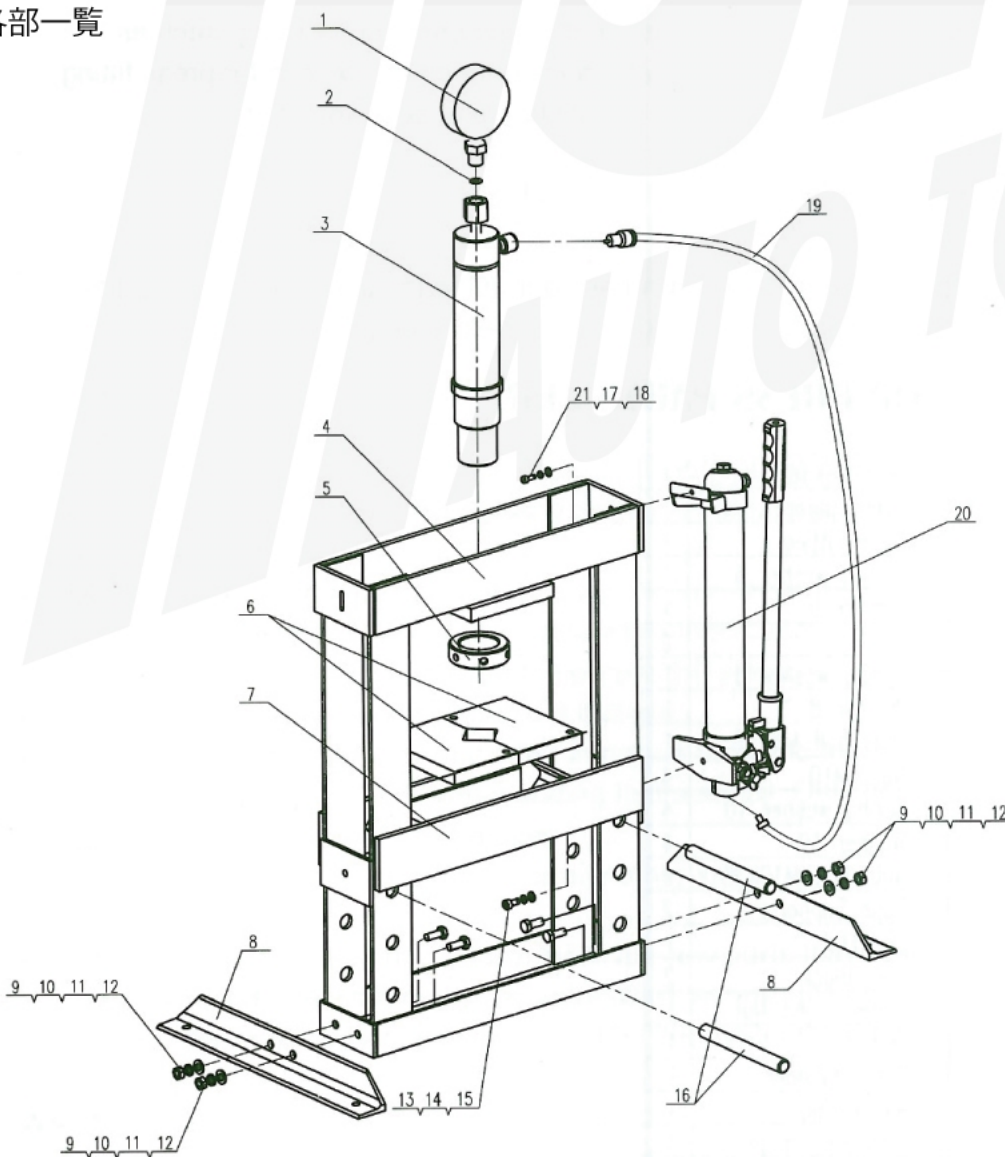
- ・本製品は、加工部品の分解・圧入・成形などの整備、加工作業することを目的として作られています。
- ・本来の用途以外で使用すると、損傷・破損、ケガをする恐れや事故の原因となります。
- ・誤った使用方法により生じた、商品破損、人体への傷害、物品への損害、その他のいかなる損害に対しても、当社では一切の保証、並びに責務を負いかねますので、ご了承ください。
- ・使用前や定期的に、損傷・破損、作動不良、異音、油圧オイルの漏れなどの異常がないか点検してください。
- ・使用中、損傷・破損、作動不良、異音、オイル漏れなどがある場合は、ただちに使用を中止してください。
- ・異常がある場合、お買い求めの販売店まで問い合わせください。
- ・油圧ホースを無理に曲げたり、縛ったり、物を載せた状態で使用しないでください。
- ・作業中、作業手順や周辺の状態への安全確認を怠らないようにし、事故に注意してください。
- ・使用者以外、使用場所や保管場所に近づけないでください。
- ・特に子供や幼児は、危険な行動をとることがあるので、絶対に近づけないでください。
- ・直射日光、暖房器具や温度上昇する機器の側で使用しないでください。
- ・本製品は、屋内専用です。屋外での使用は止めてください。
- ・屋外での使用は、本体故障、損傷・破損、ケガをする恐れや事故の原因となります。
- ・能力を超える使用はしないでください。破損及びケガをする恐れや事故の原因となります。
- ・設置場所の作業環境温度は 0℃～ 40℃以内です。
- ・0℃以下はオイルが硬くなり作動不良の原因となります。
- ・設置場所はチリやホコリが多くある場所に設置しないでください。シリンダーやポンプにゴミが付着するとオイル漏れの原因となります。
- ・水気のある場所、水が掛かるような場所に設置しないでください。



## 警告

- ・加工部品の分解や圧入などは、サービスマニュアルや加工部品の取扱説明書に従ってください。
  - ・加圧中に作業を中断するときは、必ず圧力を抜いてください。
- 加圧した状態で放置することは、予期せぬ事態を招き、本体故障、損傷・破損、加工部品が落下・飛散し、ケガをする恐れや事故の原因となります。
- ・加圧中は、揺すったり、衝撃を与えたりしないでください。加工部品が落下・飛散等、ケガをする恐れや事故の原因となります。
  - ・分解や圧入時に生じた不具合や、人体への傷害、物品への損害、その他のいかなる損害に対して、当社では一切の保証、並びに責務を負いかねますので、ご了承ください。
  - ・圧力を掛けるときは、加工部品に対して垂直方向に真っ直ぐ、中心に圧力を掛けてください。斜め方向や、中心から外れた位置で圧力を掛けしないでください。誤った状態で圧力を掛けると、加工部品が落下・飛散し、ケガをする恐れや事故の原因となります。
  - ・ベアリングやブッシュなどの加工部品は、圧力が掛かっている状態から取り外されると急に圧力が抜けて加工部品が落下・飛散し、ケガや事故の恐れがあるので取扱いに十分注意してください。
  - ・リリースバルブを緩める時はゆっくり慎重に操作し、急な操作はしないでください。加工部品が落下・飛散し、ケガをする恐れや事故の原因となります。
  - ・点検、保管する場合は必ずポンプ及びシリンダーの圧力を開放して無負荷状態にしてください。

### 各部一覧



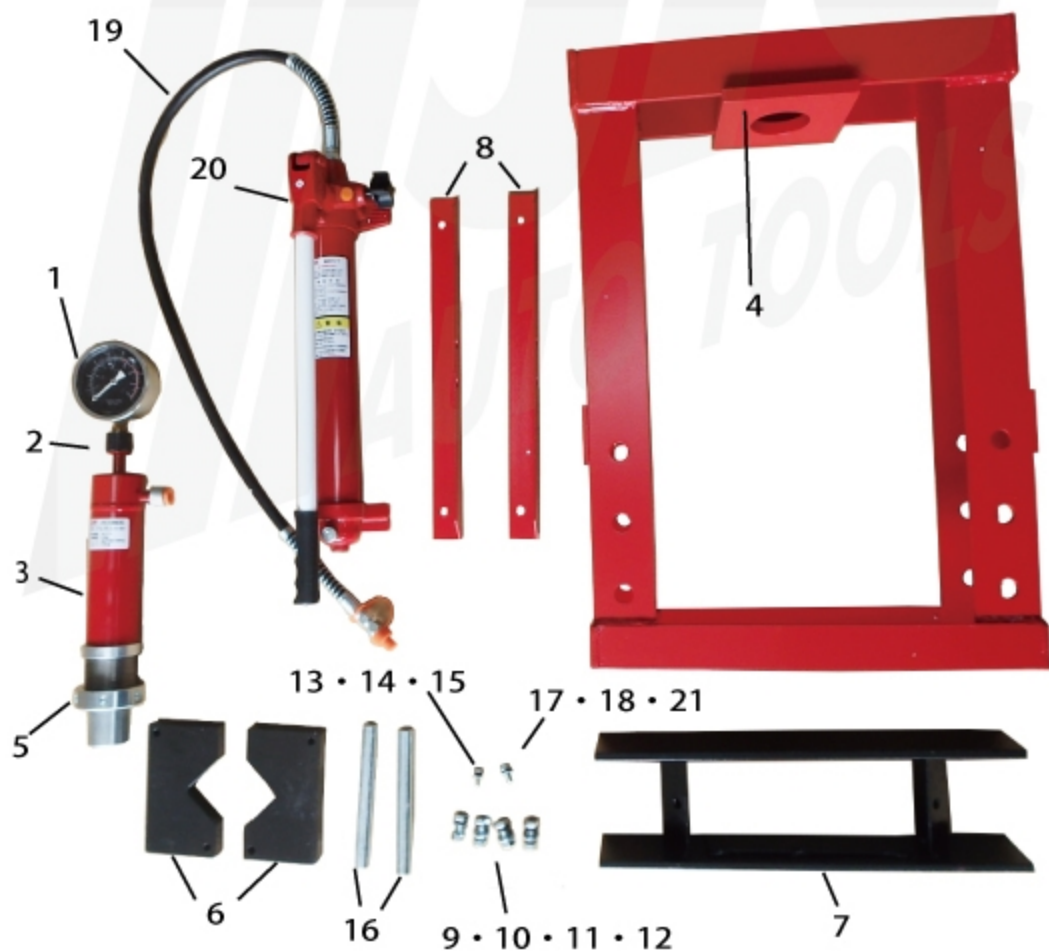
最大荷重：10トン  
ストローク：175mm  
幅：665mm  
(ハンドルを広げた最大幅  
1060mm)  
奥行：500mm  
本体重量：51kg  
サブプレート2枚付き



# パーツリスト

NO.	品名	入数
1	メーター	1
2	パッキン	1
3	シリンダー	1
4	フレーム	1
5	リングナット	1
6	作業プレート	2
7	作業台	1
8	レッグ	2
9	ボルト M10x25	4
10	ワッシャー M10	4

NO.	品名	入数
11	スプリングワッシャー M10	4
12	ナット M10	4
13	ボルト M8x16	1
14	ワッシャー M8	1
15	スプリングワッシャー M8	1
16	サポートピン	2
17	ワッシャー M6	1
18	スプリングワッシャー M6	1
19	油圧ホース	1
20	油圧ポンプ	1
21	ボルト M6x16	1



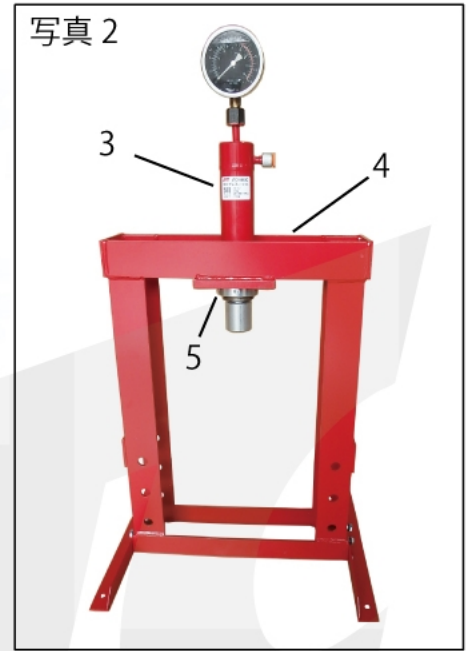
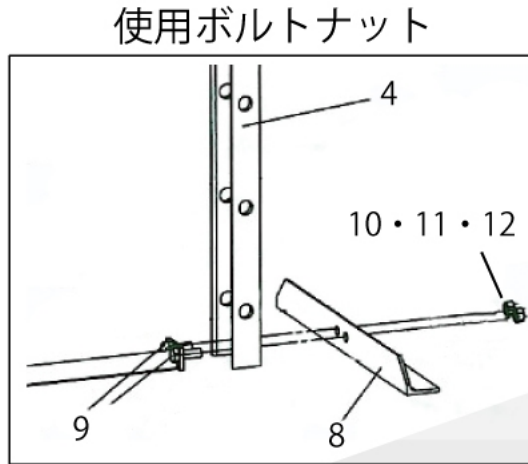
# 組立て方法

1 ※組立て前に3番・20番のエア抜きを行ってください。

4番に8番を9・10・11・12番で取り付けます。

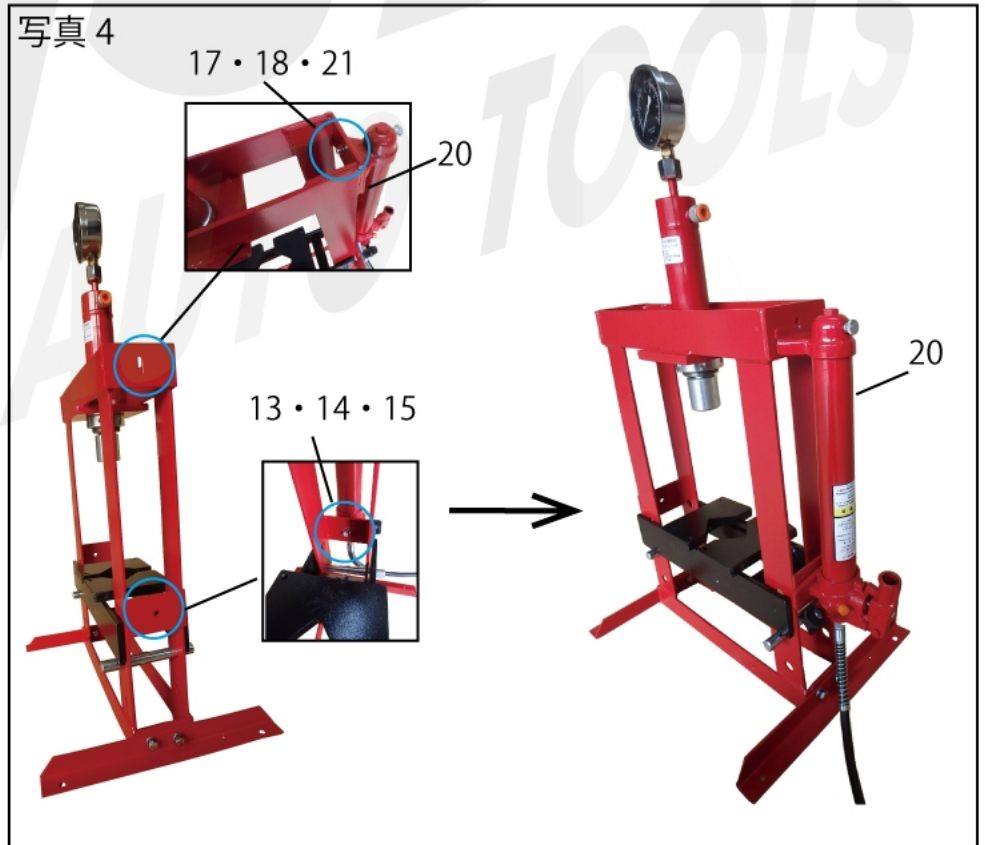
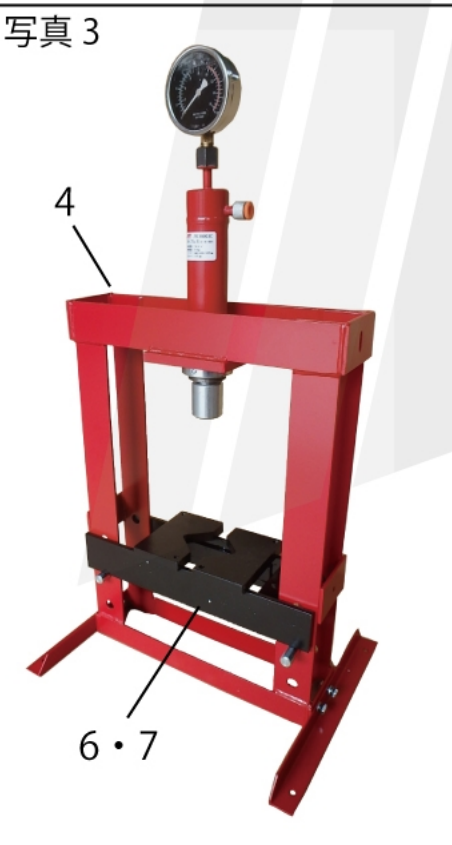
垂直で水平になるように調節して全てのボルトナットを本締めします。(写真1)

3番から5番を取外して4番に差込ます。5番のリングナットで固定します。(写真2)



2 7番を4番に設置します。7番の上に6番を置きます。(写真3)

20番を4番に13・14・15と17・18・21で固定します。(写真4)



3 3 番のシリンダーに 19 番の油圧ホースを接続します。(写真 5)

※先端を奥まで差込んでナットを締め込んでください。

※組立て完了後全てのボルトナットが締まっている事を確認して下さい。

各部の点検を行い本体のグラつき、ガタが無い事を確認してください。

20 番のポンプを作動させオイル漏れの有無を確認してください。

3 番のシリンダーが正常に作動するか確認してください。

写真 5



※組立て完了後以下の確認を必ずしてください。

全てのボルトナットが締まっている事を確認して下さい。

各部の点検を行い本体のグラつき、ガタが無い事を確認してください。

3 番・20 番のオイル漏れの有無を確認してください。

3 番シリンダーが正常に作動するかの確認してください。

## メーター換算表

ton	1	2	4	6	8	10	12	14	16
MPa	4.9	9.9	19.9	29.9	39.9	49.9	59.8	69.8	79.8

### 使用方法

作業対象物の大きさを考慮して、7 番の高さを調整します。

20 番ポンプのリリースバルブを時計回り方向に回してください。

ハンドルを使用しポンピング操作し圧力を掛けます。

3 番のシリンダーが対象物に接触したら垂直方向に圧力が掛かっているか確認してください。

また 6 番の作業プレートと作業対象物に異常が無いか確認してください。

圧力を抜く時にはゆっくりと慎重にリリースバルブを反時計回り方向に回してください。

急激にリリースバルブを回すと圧力が一気に抜け思わぬ事故の原因になり大変危険です。

※必ず垂直方向に圧力が掛かるように作業対象物をセットしてください。

作業の際には作業対象物を確認しながらゆっくり慎重に作業を行ってください。